

民主島根

2017年
8.20
第1294号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

戦争を反省しない安倍政権の退陣を 「終戦の日」各地で街頭演説

岩田 衆院島根1区 予定候補 ら地方議員先頭に

県内の日本共産党地方議員らは15日、72回目の終戦記念日にあたり、各地で街頭演説し、「憲法9条を守り抜き、憲法を生かした平和な日本を築くために力を合わせよう」と呼びかけました。

松江市の大型商業施設前で、岩田たけし衆院島根1区予定候補は、尾村利成県議、橘祥朗、吉儀敬子、田中肇の市議団と宣伝。岩田氏は、安倍政権の戦争法の強行とその具体化、「共謀罪」法制定など戦時体制を整える数々の策動を厳しく批判し、「野党と市民の共闘を発展させ、安倍政権を打倒しよう」と訴え。

尾村県議は、日本政府が唯一の被爆国でありな



訴える岩田、尾村氏と党松江市議団ら (松江市)



県被爆者協

「国際署名」で核なき世界へ 被爆者・2世 初めて訴える

県原爆被爆者協議会は6日、松江市のJR松江

から、核兵器禁止条約の交渉に参加せず、「署名することはない」と言い放つ許しがたい態度をとったことを紹介し、「解散・総選挙に追い込み、安倍

政権を終わらせ、非核の政府を一緒につくりましょう」と訴えました。ドライバーや歩行者から激励の声寄せられました。

駅前で行われ、「ヒバクシヤ国際署名」への協力を呼びかけました。(写真)

同会が街頭で活動するのは初めて。被爆者が街頭に立っているのも最後になるのではないかとの思いで取り組まれました。

被爆者と被爆2世ら約20人が参加し、4時間で418人分の署名が寄せられました。

原美男会長(90)ら

島根原発問題で意見交換会

池田 京都自治体問題、市川 日本科学者

日本共産党県議団は4日、日本科学者会議の市川章人、京都自治体問題研究所の池田豊の両氏を迎え、松江市で原発問題に関する意見交換会を開きました。約30人が参加しました。

市川氏は、世界中で廃炉計画が進む中、日本だけが政府と電力会社、原子力規制委が責任を逃れながら再稼働を推進している状況を批判し、「日本での廃炉基準は発電能力の問題。能力の低い原発は廃炉にする。危険かどうか判断基準ではな

が「再び私たちと同じ被爆者をつくってはなりません。一人ひとりの署名の集まりが国際社会を動かす大きな力になりま

「ヒバクシヤ国際署名」平和行進ペナント

溝口知事が署名へ

溝口善兵衛知事は2日、県庁を訪れた原爆被爆者協議会の原美男会長の「ヒバクシヤ国際署名」の要請に応じ、署名しました。また、7月2

(14)は「二度とこんな恐ろしいことがないように、私たち若者がとめていきたい」と話し、同年の男子は「修学旅行で広島に行き、関心があった。若い世代に核廃絶の声が広がってほしい」と語りました。

署名した女子中学生



い」と力説しました。

中電 宍道断層39キロ 見直し方針

尾村利成県議は報告で「宍道断層が25キロから39キロとなれば、鳥取沖西部断層との離隔距離はわずか5キロとなる」と指摘。

宍道断層(39キロ)、離隔距離(5キロ)、鳥取沖西部・東部断層(98キロ)がつながれば142キロの活断層になるとし、「原発再稼働などあり得ない」と強調しました。(写真参照)



鼓動

小欄でも何度か紹介したことのある日野原重明さんが亡くなった。105歳の大往生である。牧師の家庭に育ち、生涯、命の大切さを訴え続けた。医師であり、敬虔なクリスチャンだった。最新の言葉は「ありがとう」だったという▼自ら学生時代に結核を患ったことから、患者の精神面でのケアの大切さを説き、「患者参加の医療」を提唱した。そして、今日、一般的となった「人間ドック」「生活習慣病」など医療の草分け的な存在となった▼「命」というのは、使える時間。自分の持っている時間を誰かのために使ってほしい。全国200校以上の小学校を訪れ「いのちの授業」を続けた。その根底には、未来を担う子どもたちに「柔らかな心のうちに平和の尊さ、命の尊さを心に刻んでほしい」との思いがあったという▼自らも超高齢だった日野原さんは、高齢者にもエールを送り続けた。「人生はゴールの時まで向上できるし、希望がある」「鳥は飛び方を変えられないが、人間は生き方を変えられる。いくつになっても新しいことに挑戦できるんです」と。作家の瀬戸内寂聴さんは「先生の存在そのものが周りを温かくしてくれた」と、その死を惜しんだ▼そして圧巻は、晩年の平和発信である。「日本を戦争のできる国にしようとする政府の動きにハッキリ『ノー』をつきつけよう」「(安保関連法に)私は絶対反対。日本国憲法の精神は、聖書の精神に非常に似ているところがある」「憲法を変えようという勢いを止めるのは子どもたち…」等々100歳を超えて発信し続けた闘士の人でもあった。(吉)

県地域人権連 県と人権問題で意見交換

新しい差別うまないように

一尾村・大国県議が同席



県地域人権運動連合会の
大西修議長と片寄直行
事務局長は10日、県庁を
訪れ、昨年12月に成立し

た「部落差別解消推進法」
について県の担当者と懇
談しました。日本共産党の
尾村利成、大国陽介の両県
議が同席しました。(写真)

地域の話題

江 浸水被害箇所
田中議員が調査

7月26日、前日の
大雨で浸水被害が発生
した黒田町を地元住民
と調査し、河川課の担当
者とともに上流部の調
整池も視察しました。
床上・床下浸水や自家
用車の浸水による故障
も見られ、被害は想像以
上でした。今回の被害の
後片付けについて、浸水
による廃棄ごみは自己
搬入(補助制度あり)と
されていることや、浸水
の原因など幾つかの課
題が確認できました。
今回の浸水は、中川の
水位が北田川より高く、
北田川の水が行き場を
失ったことで溢れ出た
恐れがあります。中川の

江 市内で意気高く
平和大行進

7月28日、江津市で
平和行進が行われまし
た。今年は7月7日に国
連で「核兵器禁止条約」
が採択され、人類が核兵
器のない世界への第一
歩を踏み出した歴史的
転機の中での集会・行進
となりました。
日本共産党からは衆
院島根2区予定候補の
向瀬慎一西部地区委員
長、森川佳英市議があい
さつしました。集会後、

小中校エアコン設置
西村議員が要求

西村議員「ある現役
教員から「石見小学校3
階の教室で授業をしてみ
んさい。ただ教壇に立つ
だけで自分の汗が教科書
にポタポタ落ちてきてや
れんのじゃけー。それく
らい暑いんよー」と言わ
れたことがある。「段階的
な整備」とは具体的にど
ういうことなのか。
教育長「例えば、高校
受験を控えた中学3年生
のクラスからエアコン整
備を始めた学校の例を聞
いている。現段階では、
具体的基準については決
めていない。これから夏
の温度の記録を取り、そ
れらをもとに具体的な整
備のあり方を検討した
い。(「浜田民報」より)

地域づくりリナンバーを八束から



八束の明日を考える会 キックオフミーティング
松江八束町で3日、
豊かで住み続けることの
できる地域をめざす第1回
意見交換会が開かれ、市の
担当者、研究者、住民ら約
60人が参加しました。
2005年の松江市との
合併後、07年に「八束の
明日を考える会」が発足し、
よりよい町づくりへ勉強会
を続けています。

核廃絶の先頭に立つ政府を

安倍政権倒し、国民の声が生きる政治へ

党創立95周年記念講
演会で「二つのうれしい出
来事」の一つに、核兵器禁
止条約が採択されたこと
が取り上げられました。
戦後70年余、被爆者の
みなさんがいつかんと
核兵器の非人道性を訴え
続け、原水爆禁止の運動団
体が核兵器廃絶を求め、不
屈にたたかってくられた
ことが実りました。
日本共産党が大国の干
渉など大きな困難もはね
のけて運動を進展させて
きたことも、世界を進歩の
方向にすすめる力になっ
たと確信を深めています。
被爆地・広島は、戦
後ただちに、原爆反対の運
動をすすめる、進歩的文化人
や労働組合、青年・女性の
団体などと手をつないで、
1949年に日本の原水
爆禁止運動の草分けとも
いふべき「平和擁護広島大
会」の開催へ。
共産党員である詩人・峠
三吉は、被爆の惨状や原爆
投下の問題の本質を告発

呼びかけ人の一人、島根
大学名誉教授の保母武彦氏
が基調報告し、「先進的な取
り組みをしている例で海士
町がある。働きがい、生き
がいのある生活を町全体で
進めている」とし、住民参
加型の町づくりの必要性を
強調。その上で「松江市と
いう自治体の中に、さらに
小さな自治組織(コミュニ
ティ)をつくり、住民の力
を押し上げよう」と訴えま
した。(写真)
日本共産党の橋祥朗市議
があいさつしました。

日本共産党准中央委員

かきうち京美
お母さん奮闘記



「ちちをかえせ ははをかえせ」で始まる詩は、深く心を揺さぶられます。こ
うした党の歴史、たたかい
を誇りに思っています。
戦争被爆国の政府であ
るならば、条約に参加し、
先進的な役割を發揮すべ
きです。広島市での「党を
語るつどい」では、みなさ
んと「核兵器廃絶を求め
る世界の主流の先頭に立つ
政府をつくらう」との思い
を共有しました。
岡山県の国立ハンセン
病療養所・長島愛生園の党
支部が今年結成70年を
迎えます。その歴史は、療
養所の劣悪な環境と人権
侵害の中、人間の尊厳を取
り戻すため、不屈の活動を
積み重ねてきた歩みです。
「国民の苦難あるところ、
たたかひのあるところ日
本共産党あり」。多くの
先輩たちがつなげてく
れた社会変革の事業を大
きく発展させて、安倍政権
を倒し、国民の声が生きる
新しい政治を実現してい
ます。(写真は、国立ハン
セン療養所・長島愛生園の夏
祭りにて7月27日)



する作品を残しました。
「ちちをかえせ ははをかえせ」で始まる詩は、深く心を揺さぶられます。こ
うした党の歴史、たたかい
を誇りに思っています。
戦争被爆国の政府であ
るならば、条約に参加し、
先進的な役割を發揮すべ
きです。広島市での「党を
語るつどい」では、みなさ
んと「核兵器廃絶を求め
る世界の主流の先頭に立つ
政府をつくらう」との思い
を共有しました。
岡山県の国立ハンセン
病療養所・長島愛生園の党
支部が今年結成70年を
迎えます。その歴史は、療
養所の劣悪な環境と人権
侵害の中、人間の尊厳を取
り戻すため、不屈の活動を
積み重ねてきた歩みです。
「国民の苦難あるところ、
たたかひのあるところ日
本共産党あり」。多くの
先輩たちがつなげてく
れた社会変革の事業を大
きく発展させて、安倍政権
を倒し、国民の声が生きる
新しい政治を実現してい
ます。(写真は、国立ハン
セン療養所・長島愛生園の夏
祭りにて7月27日)

しまね地域・自治 夏の学校

8月26日(土) 13:30~17:40 夕食・交流会 18:30~
27日(日) 9:00~12:00

国民宿舎さんべ荘(大田市三瓶町志学)

参加費 会員:2千円 非会員:3千円 青年・学生:千円
*宿泊費(朝食付き)7,500円、交流会費 5,500円

主催:しまね地域自治研究所 TEL:0852-31-3396
(しまね労連気付)